

特116

758

大正十五年七月三十一日發行 (每月壹回發行)

和歌山地方
裁判所管内
戶籍及寄留事務協議會報

第九拾壹號



(實費金貳拾錢)



始



43116
758

和歌山地方戸籍及寄留事務協議會報

第九拾壹號

○目次

一訓令、通達、通牒類

○本省通達、通牒、回答ノ部

一參考資料

○大阪地方裁判所管内決議

○本省通達、通牒、回答ノ部

- 1307 戸主ト爲リタル養子ノ離縁ハ無効トス
- 1308 妻ヲ有スル戸主廢家ノ上他家ニ親族入籍ヲ爲シ戸内ニ於テ他ノ家族ノ養子ト爲リタル後離婚縁ヲ爲ストキハ妻ハ其生家ニ復籍ス
- 1309 女戸主ノ父カ男養子ヲ爲シ之ト女戸主ト戸内婚姻ヲ爲シ(戸主ト爲ラス)タル後離縁ヲ爲スモ養子ハ實家ニ復籍セス
- 1310 夫ノ家ニ在ル十五年未滿ノ庶子ト妻カ養子縁組ヲ爲シタルトキハ其親權ハ實父ニ於テ行フ
- 1311 實母ト繼父トアル場合ハ繼父ニ於テ親權ヲ行フ

○目次

- 1312 實父母又ハ養父母アル者カ戸内ニ於テ養子縁組ヲ爲シタル場合養家ニ實父母カ入籍シタル場合ノ親權者
- 1313 養子ニ養母ト繼父トアル場合ハ繼父親權ヲ行フ
- 1314 親權ヲ行フ繼母カ民法九一七條ノ規定ニ依リ財産目録ヲ調製セサルトキハ親族會ハ繼母ノ財産管理權ノ免黜ノ決議ヲ爲スコトヲ得
- 1315 親權ヲ行フ父又ハ母ハ夫タル未成年ノ子ニ代リテ民法八百二條ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得
- 1316 未成年戸主ニ對シ親權ヲ行フ母カ其私生子ヲ入籍セシムルニ付戸主ニ代リテ同意ヲ與フルカ如キ場合ハ特別代理人ノ同意ヲ要ス
- 1317 未成年戸主ノ母カ私生子出生、養子縁組、他家相續、戸内婚姻、分家、廢絶家再興等ヲ爲ス場合ハ特別代理人ノ同意ヲ要ス
- 1318 母カ亡戸主ノ未成年ナル弟ヲ相續人ニ選定シタル場合ニ於テ相續ノ拋棄ハ特別代理人ニ於テ爲スヘシ
- 1319 未成年戸主ノ母カ十五年未滿ノ子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス場合ニハ特別代理人ノ同意ヲ要ス
- 1320 未成年戸主ノ母カ其子ノ縁組ニ付同意ヲ爲ス場合ニ於テ別ニ戸主ニ代リテ之ニ同意ヲ與フルコトヲ得
- 未成年戸主ノ繼母カ戸主ノ姉ノ縁組ニ付戸主ニ代リテ同意ヲ與

九一一



- 1321 へ一方姉ニ對シ親權者トシテ同意ヲ與フル場合特別代理人ノ同意ヲ要セス
- 1322 親權ニ服スル未成年者カ他家相續ヲ爲シタル場合後見開始ノ日ハ相續承認ノ日ナリ
- 1322 未成年者ノ特別代理人選任ノ爲ニ設ケタル親族會ハ親權者カ父ナルト母ナルトニ拘ラス無能力ノ止ム迄繼續ス
- 1323 繼子ニ對シテ親權ヲ行フ繼父母ハ繼子ノ親族會員ト爲ルコトヲ得ス
- 1324 無籍ノ家長死亡ノ場合之テ戸主ト認定シ得ルニ於テハ家督相續開始ス
- 1325 先例變更前ニ於テ父ノ入夫婚姻ニ因リ嫡出子ノ身分ヲ取得シタル庶子ニシテ父ノ婚家ニ入りタル者ト其後認知シタル二男トノ間ノ相續權
- 1326 分家ノ際家族ト爲リタル二男ト其ノ後分家ノ家族ノ養子トシテ入籍シタル長男トノ間ニ於テハ長男相續權ヲ有ス
- 1327 戸主カ他家ニ在ル嫡出女ヲ養子ト爲シタル後更ニ他家ニ在ル年長ノ嫡出女ヲ養子ト爲シタル場合相續權ハ後ニ爲シタル養子ニ在リ
- 1328 民法施行前願濟廢嫡ノ上分家シ更ニ入籍シタル長男ニ對シ廢除ノ取消ノ裁判アリタル場合長男ト二男トノ相續權
- 1329 私生子男子有スル女戸主カ他家ニ在ル長女ヲ母ノ養女トシテ入籍セシメタル場合相續權ハ長女ニ在リ

- 1330 前戸主タル父ノ廢除シタル長男ハ現戸主タル母ノ相續人ナリ
- 1331 長女ノ婿養子及私生子男子有スル女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタル後入夫カ私生子男子ヲ認知シタルトキハ認知ニ因リテ長男ト爲リタル者相續人ナリ
- 1332 私生子甲姉乙妹ヲ有スル女戸主カ乙妹認知ニ因リ父ノ家ニ入ルコトヲ得ス母ノ家ニ止マルトキハ甲姉推定家督相續人ナリ
- 1333 女戸主ノ私生子ニシテ戸法八三條後段ノ嫡出子出生届ヲ爲シタルモ戸主ノ同意ヲ得ス母ノ家ニ入りタル者ト他ノ私生子トノ間ノ相續權
- 1334 女戸主ト廢家ノ上入夫婚姻ヲ爲シ戸主ト爲リタル者ニ入夫ノ携帶子男ト女戸主ノ先夫ノ子タル長女アルトキハ長女相續人ナリ
- 1335 戸主カ長男ヲ有スル長男ノ遺妻ト戸内婚姻ヲ爲シ長男ヲ擧ケタル場合相續權ハ亡弟ノ長男ニ在リ
- 1336 長女ノ婿養子ト爲スニ緣組入籍後二女ト婚姻シタル場合相續權ハ養子ニ在リ
- 1337 戸主ニ婿養子ト亡長男ノ長女ト亡長男ノ養子男アリ婿養子ハ分家ヲ爲シ亡長男ノ長女ハ他家ノ養子ト爲リ亡長男ノ養子亦離縁シタリ其後婿養子及亡長男ノ女引續キ親族入籍ヲ爲シタル場合相續權ハ婿養子ニ在リ婿養子ト亡長男ノ長女ト婚姻シタル場合亦同シ
- 1338 民法施行前養嗣子ヲ爲シタル者長男ヲ擧ケタル場合相續權ハ養嗣子ニ在リ
- 1339 私生子男子有スル女カ廢家婚姻ヲ爲シ其ノ夫カ私生子ヲ認知シタル

- 1340 ル場合其婚姻前夫家ニ親族入籍シタル嫡出子アルトキハ民法九七〇條ニ依リ相續順位ヲ定ムヘキモノトス
- 1340 廢家者ニ隨テ入籍シタル者ノ相續權
- 1341 戸主ニ親族入籍ヲ爲シタル長女ト後妻ノ連子タル男トアルトキハ長女相續權ヲ有ス
- 1342 私生子間ニ於テハ民法九七二條ノ適用ナシ
- 1343 代襲相續人タル孫女ハ自己ノ爲ニスル婿養子ノ爲ニ相續權ヲ害セラルコトナシ
- 1344 代襲相續人タル孫女懐胎中廢除セラレタル場合孫女及孫女ノ母ニ共ニ婿養子タル夫アルモ胎兒タル曾孫代襲相續人トナル

○大阪地方裁判所管内決議

- 一一一 胎兒認知ヲ爲シ父カ他ニ轉籍後胎兒死産シタル場合届出ハ新本籍地ニ爲スヘシ
- 一一二 養女ノ婿養子ニ入籍セル戸主ノ長男ト分家ニ從ヒタル二男トアル家ノ相續人ハ婿養子タル長男ナリ
- 一一三 市郡編入後以前ノ出生又ハ死亡届書ニ基キ戸籍記載方ハ場所何郡何村何番地ニ於テ出生又ハ死亡ト記載スヘシ
- 一一四 女戸主カ他家ノ家族ヲ指定隠居シ家督相續届ヲ戸主ノ同意ヲ得テ受理セラレタキ旨附記シ届出ツルモ受理スルコトヲ得ス
- 一一五 入夫戸主ト爲リ庶子出生入籍セリ後入夫離婚ノ場合右庶子

- 一八 女戸主意思能力ナキ未成年ノ家族ヲ連レ廢家婚姻セリ夫離縁セラレタル場合一家創立ニ從フモ未成年者ハ共ニ從フヲ得ス
- 一九 分家戸主ノ家ニ在ル父方ノ祖母親族入籍ノ後母方ノ祖母亦入籍セリ戸主死亡ノ場合相續人ハ父方ノ祖母ナリ
- 二〇 女戸主ニ養父ト養母トアリ養母ヲ家督相續人ニ指定隠居スルニハ裁判所ノ許可ヲ要ス
- 二一 父及繼母ト實母トヲ有スル長女繼組ノ場合承諾者ハ父及實母ナリ
- 二二 戸主ノ二男他家ニ縁組後買家ニ親族入籍シ在籍ノ儘離縁ス相續ニ付テハ民法九七二條ノ適用アリ
- 二三 未成年戸主ノ母カ私生子出生シ戸法七七條ニ依リ戸主ノ法定代理人タル母ヨリ届出ノ場合出生子入家ニ同意ヲ母カ代リ爲シタル上尙重ナル親族又ハ縁故者ノ同意ヲ要ス
- 二四 婿養子カ養親ノ養女タル妻ヲ迎ヘ離縁セラレタルトキ養女ト養親トノ關係消滅ス
- 二五 嫡出子身分取得ノ追完届ニハ必スシモ證人ノ連署ヲ必要トセス
- 二六 清國人ノ寄留届ハ領事ノ證明書要セス該届書ハ當該役場ニ

- 保存スヘシ
- 一三七 民法施行前婚姻未届ノ女ニ出生セル子ヲ長男ト爲シ其後他女ヲ婚姻入籍セシメ二男出生セル家ノ相續人ハ二男ナリ
- 一三八 母ノミ外國ヨリ歸朝本籍地ニ出生届出ヲ爲シ父ヨリ領事ヘ同日ニ同出生届出タル場合父ヨリ爲シタル届書ハ事由ヲ附シ領事ヘ返戻スヘシ
- 一三九 實父ト嫡母トチ有スル十五年未滿ノ子カ養子縁組ヲ爲スニ嫡母カ所在不明ニテ意思表示ヲ爲スコト能ハサル場合父ノミニテ承諾届出ナサハ受理スヘシ

訓令、通達、通牒類

○本省通達、通牒、回答ノ部

○小倉市長伺 (大正十二年五月二十三日)

(1307) 一 本市大字鍛冶町七十一番地戸主瀧上善六養子庄治郎(明治二十年三月二十五日生)養父瀧上善六養母マサト協議離縁届出大正九年九月七日受附除籍ヲ爲シタル後養父善六ハ右離縁届出前大正八年八月十九日日本縣企救郡足立村ニ於テ死亡ノ旨大正十年五月三十日届出ニヨリ養子庄治郎ハ離縁届出當時既ニ養家ノ戸主ト爲リ居タル

モノニテ離縁ハ民法第八百七十四條ノ規定ニ違反セサルモノナルコトヲ發見シ別紙謄本ノ通離縁戸主庄治郎ノ戸籍ヲ編製有之候處右離縁ハ有效ニシテ庄治郎ハ離縁ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノニシテ養母マサヨリ相續ノ届出アリタル場合ハ其届出ヲ受理スヘキモノニ候哉

養子カ戸主ト爲リタル後ハ絶對ニ離縁ヲ爲スコトヲ許サス仮令戸籍吏カ誤テ離縁ノ届出ヲ受理シタリトスルモ離縁ハ其效果ヲ生スヘキモノニアラサル旨法曹會決議(法曹記事第三十二卷第三號四九頁)モ有之取扱上疑義ヲ生シ候

本籍	福岡縣小倉市大字鍛冶町七十一番地	
前戸主	瀧上善六	
族稱	前戸主トノ稱	瀧上善六養子
父	福田市太郎	二男
母	マサ	養子
養父	瀧上善六	
養母	マサ	

山口縣大島郡家室西方村第四百五番屋敷戸主福田市太郎二男瀧上善六同人妻マサト養子縁組届出大正三年三月十九日受附入籍養父瀧上善六養母マサト協議離縁届出大正九年九月七日受附同月十五日入籍通知ニ因リ除籍
大正八年八月十九日前戸主善六死去ニ因リ家督相續ヲ爲シタルモ其ノ届出ヲ爲サルニ付キ大正十年十月四日附小倉區裁判所ノ許可ニ因リ同月五日本戸

○訓令、通達、通牒類

○訓令、通達、通牒類

籍ヲ編製ス

大分縣字佐郡南院內村大字來鉢三百七番地戸主御幡喜三郎養女明治四十二年三月十日瀧上善六ト婚姻届出同日入籍
原戸籍ニ依リ實家戸主ノ本籍氏名及父母ノ氏名並續柄ヲ知ルコト能ハサルニ付其記載ヲ省略ス

出生届出大正三年三月七日受附入籍但原戸籍ニ依リ出生ノ場所及届出入ノ資格並ニ氏名ヲ知ルコト能ハサルニ付其ノ記載ヲ省略ス

主		養母		從母		姪	
出	生	出	生	出	生	出	生
瀧上庄治郎	御幡喜三郎養女	マ	サ	亡瀧上トミ	私生子女	政	代
明治二十年三月二十五日					元治元年十二月二十六日		
							大正二年三月三十日

民事局長回答 (大正十二年六月十六日)

戸主ト爲リタル養子庄治郎ニ對スル離縁ハ無効トス從テ法定家督相續人ヨリ家督相續ノ届出アルモ之ヲ受理スルコトヲ得サルモノト思考致候

○山口區裁判所監督判事問合 (大正九年五月十四日)

第九 甲家ヨリ妻ヲ娶リタル乙戸主カ廢家シテ丙家ニ親族入籍ヲ爲シ此夫婦カ其家ニ於テ他

ノ者ノ養子ト爲リ而シテ夫婦間ニ離婚ヲ爲シタル後其夫婦タリシ者ノ双方又ハ夫婦タリシ者ノ一方カ其家ノ養親ト離縁ヲ爲ストキハ夫婦タリシ者ハ甲家ニ復籍スヘキモノト思考ス然ラハ右婦タリシ者ヲ甲家戸籍ニ復籍ノ記載ヲ爲スニハ丙家本籍地ノ市町村長ニ於テ婚姻養子縁組ヲ爲シ次テ離婚ヲ爲シ而シテ離縁ヲ爲シタルモノナルコト及ヒ復籍ノ手續ヲ爲スヘキ

旨戸籍抄本ヲ添付シテ甲家本籍地市町村長ニ通知シ甲家本籍地市町村長ハ之ニ基キ左ノ例ニ依リ戸籍ニ記載スヘキヤ

何縣何郡何村何番地戸主甲野儀太郎ノ家籍ニ於テ何某及同人妻某ト養子縁組ノ後夫右儀太郎甥禮二郎ト協議離婚届出大正何年何月何日何村長何某受付養父何某及養母某ト協議離縁届出同年何月何日同村長何某受付同月何日戸籍抄本送付復籍

民事局長回答 (大正九年十月十一日)

第九項 婦タリシ者ハ甲家ニ復籍ス此場合ニ於テ丙家本籍地ノ市町村長ハ離縁届書ノ一通又ハ其ノ謄本ニ戸籍抄本ヲ添付シ之ヲ甲家本籍地市町村長ニ送付スヘシ戸籍記載例ハ文末「戸籍抄本」ヲ削リ其ノ他貴見ノ通

○廣島縣雙三郡三次町長代理助役稟請

(1309) 第八項 女戸主ノ父カ男子ヲ養子トナシ養子ト

○訓令、通達、通牒類

(大正十一年十月二十八日)

女戸主トカ戸内ニ於テ婚姻シタルモ養子ハ戸主ト爲ラス後日養子ハ離縁ノミヲ爲シタルトキ女戸主ハ隱居シタルモノト看做シ夫ノ家ニ入ルヘキモノナリヤ將タ夫ハ女戸主ノ家ヲ去ラサルモノナリヤ

民事局長回答 (大正十一年十一月二十九日)

第八項 後段貴見ノ通

○豐橋區裁判所監督判事問合 (大正五年三月十一日)

第一 夫ノ家ニ在ル十五年未滿ノ庶子ト妻カ養子縁組ヲ爲シタルトキ即チ民法第八百四十一條第二項ノ場合ニ於テハ
(一) 其親權者ハ何人ニ於テ之ヲ行使スヘキヤ
(二) 養子ト爲リタル庶子カ更ニ他家ニ縁組ヲ爲サントスルトキハ之カ縁組ノ代諾者(同意者ニアラス)ハ養母ノミニテ足ルヤ又ハ實父モ共ニ承諾者タルヘキヤ

民事局長回答 (大正四年三月二十八日)

(二) 後段貴見ノ通

(1311) ○德島縣名東郡加茂名町長稟伺 (大正九年五月十八日) 實父死亡シタル未成年者ノ親權行使ノ場合繼父カ親權ヲ行フヘキヤ又母カ親權ヲ行フヘキヤ之ニ付左ノ甲乙兩説アリ其何レカ正當ナリヤ疑義有之ニ付稟伺候也

甲 説

民法第八百七十七條ニヨレハ子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ストアルハ實父モ繼父モ包含ス又同條第二項ノ二ニハ死亡シタルトキトアルハ同シク實父繼父ノ死亡シタル時ヲ指スモノニシテ母ニ行使權ナシ故ニ繼父カ行使權ヲ行フモノトス

乙 説

同法第二項ノ二ハ死亡シタルトキトアルハ實父ノ法意ト解ス又同法第八百九十五條ニ因ルモ繼父アル子ノ母カ親權ヲ行フモ差支無之母ニ於テ行使權ナキ謂レナシ繼父子ノ間ハ屢々不和合ヲ生シ易キ實例多クアリ故ニ未成年者ヲ保護スル

上ニ於テモ差支無之モノトス

民事局長回答 (大正九年五月二十七日) 民事第一七三八號 問合面ノ場合ニ於テハ繼父親權ヲ行フヘキ儀ト思考ス

(1312) ○山口區裁判所監督判事問合 (大正九年五月十四日) 第十 法曹記事第二十九卷第十號七九頁掲載大正八年七月二十二日發第一五四號廣島縣東高屋村長伺同年九月十九日民事第二八六一號御

回答第三項後段「家ニ實父ト養母トアル場合ニ於テハ實父親權ヲ行フヘキモノニシテ」トアルハ如何ナル事例ニ因リ家ニ實父ト養母トノ双方アルニ至リタルモノナル場合ヲ想像シテノコトナルカ之ヲ了解セスト雖モ從來公ニセラレタル他ノ御回答ハ之ニ抵觸スルモノアルカニ察セラレ疑義存スルニ因リ更ニ左ノ事件ニ付親權ハ何人カ之ヲ行使スヘキモノナリヤ御示アリタシ

(イ) 同一戸籍内ニ於テ戸主タル實父又ハ養父ノ

親權ニ服スル子カ更ニ家族タル他ノ男又ハ女

ノ養子ト爲リタルトキ

(ロ) 同一戸籍内ニ於テ戸主タル實母又ハ養母ノ親權ニ服スル子カ更ニ家族タル他ノ男又ハ女

ノ養子ト爲リタルトキ

(ハ) 同一戸籍内ニ於テ家族タル實父又ハ養父ノ親權ニ服スル子カ更ニ戸主タル男又ハ女ノ養子ト爲リタルトキ

(ニ) 同一戸籍内ニ於テ家族タル實母又ハ養母ノ親權ニ服スル子カ更ニ戸主タル男又ハ女ノ養子ト爲リタルトキ

(ホ) 養家ニ養父又ハ養母ノ双方又ハ養父繼母ノ

双方(以上ノ養母又ハ繼母ハ養父ノ妻ナルト

否トヲ問ハス)在リテ子カ養父ノ親權ニ服シ

ツ、アル際ニ實父又ハ實母カ他家ヨリ入籍シタル後養父カ死亡シタルトキ

(ヘ) 前號若シ養父ノ親權ニ服シツ、アル際ニハ

實父又ハ實母カ入籍セサリシ爲メ養父ノ死亡ニ因リ子カ養母又ハ繼母ノ親權ニ服シタル後

實父又ハ實母カ入籍シタルトキ

民事局長回答 (大正九年十月十一日) 民事第一六九七號

第十項(イ) 同一戸籍内ニ於テ實父ノ親權ニ服スル子カ更ニ他男ノ養子ト爲リタルトキハ養父ノ親權ニ服スヘク女ノ養子ト爲リタルトキ

ハ實父ノ親權ニ服スヘク女ノ養子ト爲リタルトキ

内ニ於テ養父ノ親權ニ服スル子カ更ニ他男ノ養子トナリタルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘク女ノ養子ト爲リタルトキハ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

養親カ戸主タルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

養親カ戸主タルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

養親カ戸主タルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

養親カ戸主タルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

養親カ戸主タルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

養親カ戸主タルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

養親カ戸主タルトキハ第二ノ養父ノ親權ニ服スヘキモノトス

○訓令、通達、通牒類

テ入籍者カ實母ナルトキハ養母又ハ繼母ニ於テ親權ヲ行フヘキモノトス

(1313) ○宇和島區裁判所監督判事問合 (大正九年十月十六日) 別紙戸籍ニ付左ノ事項疑義有之候條何分ノ御指示相煩シ度及質疑候也

一戸主乙ノ親權ハ養母丙ニアリヤ或ハ繼父丁ニアリヤ

記

前戸主	甲
戸主	乙 未成 年者
養母	丙
繼父	丁
繼父丁妻	戊

何處何番地某職甲同人妻丙ト養子乙組届出明治四十二年二月十日受附入籍大正八年三月十八日前戸主死亡ニヨリ家督相續届出同年五月十二日受附

何處何番地廢家元戸主大正三年八月一日甲長女戊ト婿養子乙組結婚届出同日入籍

何處何番地亡妻戸主甲長女入籍届出大正二年十二月二十日受附

丁ト婿養子乙組結婚届出大正二年八月一日受附

民事局長回答 (大正九年十一月十二日) (民事第三五四二號)

第一項 後段貴見ノ通

(1314) ○山口區裁判所監督判事問合 (大正十一年十二月二十日) 未成年者ノ親權ヲ行フ繼母カ民法第九百十七條第一項及第二項ノ規定ニ從ヒ財產ノ目錄ヲ調製セストノ理由ニ因リ未成年者ノ親族會ニ於テ繼母ノ財產管理權免黜ノ決議ヲ爲シ未成年者ノ後見人ヲ選任シ後見人ヨリ後見開始届ヲ提出シタル趣ニテ之ヲ受理シ得ヘキモノナルカ否カニ付其當該村長ヨリ問合有之右ハ民法第八百七十八條ノ準用上財產管理權ノ免黜有效ナリトセハ後見開始届ハ之ヲ受理スヘキコトヲ得ヘキ義ニ候得共從來未タ其例モ無之様相見エ疑義ニ涉リ村長ニ回答シ兼候ニ付開始届受否至急何分電信ニテ御意見御回示煩度候也

民事局長回答 (大正十一年十二月二十五日) (民事第四八八二號)

○仙臺地方裁判所長問合 (大正二年四月二日)

(1315) 未成年ノ夫カ未成年ノ妻ノ爲メニ民法第八百二條本文ニ掲クル行爲ノ公正証書作成ヲ囑託セントスル場合ニ左ノ二說アリ何レヲ相當トスル乎

第一說 夫ノ財產管理權中ニハ民法第八百二條

本文ノ處分行爲ヲ爲ス權限ヲモ包含スヘキモノナルヲ以テ同法第八百八十五條ニ依リ未成年ノ夫ノ親權ヲ行フ父又ハ母カ其夫タル未成年ノ子ニ代ハリ囑託スヘキモノトス

第二說 民法第八百二條ノ本文中ニハ妻ノ財產ヲ讓渡スルカ如キ處分行爲ニ關スルモノアルカ故ニ此等ハ同法第八百八十五條ニ依リ未成年ノ夫ノ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ニ代ハリテ囑託スルコトヲ得ス

疑義相生シ候ニ付御意見承知致度此段及御問合候也

民事局長回答 (大正二年四月十日) (民事第四二五號)

第一說ヲ相當ト思考ス

○訓令、通達、通牒類

(1316) ○大阪府西成郡中津町長稟伺 (大正八年九月十八日) (戶第七六九號)

未成年戸主ニ對シ親權ヲ行フ母カ分宛シタル私生子ヲ其家ニ入籍セシムルニ付テハ親權者タル母ニ於テ戸主ニ代ハリテ入籍ノ同意ヲ爲シ得ヘキヤ將タ特別代理人ヲ選任シ其ノ同意ヲ求ムヘキモノナルヤ

從來明治三十一年八月二十三日付東京市淺草區戸籍吏問合第一項ニ對スル同年十月十一日民刑第一一四八號民刑局長御回答及ヒ同年十月二十日付埼玉縣北足立郡桶川町戸籍吏問合第九項ニ對スル明治三十二年一月二十五日民刑第一九〇五號民刑局長御回答ノ趣旨ニ依リ前記前段ノ取扱ヲ爲シ來リ候處大正八年四月九日付倉吉區裁判所判事問合ニ對スル同年五月十七日民事第八九八號民事局長回答ニ依リ右民刑局長ノ各回答ハ自然變更セラレ未成年戸主ニ對シ親權ヲ行フ母ノ私生子ノ入籍ニ關シテハ常ニ特別代理人ヲ選任シ其同意ヲ得セシムルヲ相當トスト主張スルモノ有之此見解ハ民法第八百八十八條ノ律意ニ

稽へ詢ニ相當ノ解釋ニシテ毫モ批議スヘキ点無之哉ニ思料致候へ共熟々社會ノ實想ヲ觀ルニ未成年者保護ノ爲ニ親族會ヲ設置スルモノハ殆ント有産階級ニ限り無資産ノ多クハ之カ設置ヲ必要トスルコト極メテ稀ニシテ從テ其中ノ八九ハ親族會ノ設ナキヲ常トスル常態ニ有之候然ルニ右見解ニ從ヘハ親權者タル母カ私生子ヲ擧ケタルトキハ其私生子カ戸主ノ家ニ入籍スル場合ハ勿論一家創立スルニ付テモ戸主ノ權利ヲ行フモノ、同意ヲ得ル能ハサルコトヲ必要トスル結果(明治二十八年五月五日付)岐阜縣大野郡高山町戸籍吏伺ニ對スル同年六月十二日民刑第四六四號民刑局長御回答趣旨(參照)常ニ必ス親族會ヲ設ケ特別代理人ノ選任ヲ求メサルヘカラサルモ斯クテハ生活ニ餘裕ナキ煩瑣ナル手段ト費用ノ負擔ニ堪ヘス延テ其届出ヲ等閑ニ附シ爲メニ多數ノ漏籍者ヲ生スルニ至ラサルヤ懸念シ之カ取扱ニ付キ深ク疑義ヲ懷キ候條至急何分ノ御垂示ヲ得度此段及稟伺候也

民事局長回答 (大正八年十月七日) (民事第四五〇九號)
親權者カ自己ノ行爲ニ付未成年戸主ニ代リテ同意ヲ與フルカ如キ場合ハ常ニ特別代理人ヲ選任シ其同意ヲ得セシムルヲ要スルコトニ省議決定致居候稟伺面ノ場合ニ於テモ特別代理人ノ同意ヲ得セシムヘキ儀ト思考致候

(1317) ○岐阜市長稟請 (大正八年十二月一日)
未成年戸主ノ親權者カ婚姻若クハ親族入籍ニ因リ其家ヲ去ル場合ノ取扱方ニ關シ本年四月九日第一二二三〇號倉吉區裁判所判事ノ問合ニ對スル同年五月十七日民事第八九八號貴官ノ御回答ニ依レハ親權者カ自己ノ行爲ニ付未成年戸主ニ代リテ同意ヲ與フルカ如キ場合ハ利益相反スル行爲ニ該當スルヲ以テ常ニ特別代理人ヲ選任シ其同意ヲ得セシムルヲ相當トスト有之候處前掲問合事項ニ限ラス未成年戸主ノ母カ私生子ヲ出生シ養子ヲ爲シ戸内婚姻ヲ爲シ他家ヲ相續シ分家ヲ爲シ廢絶家ヲ再興シ其届出ヲ爲ス等ノ場合

ノ如キハ總テ右御回答ノ趣旨ニ依リ特別代理人ノ同意ヲ得セシムヘカラサルモノ、如ク解セラレ候モ然モ此場合利益相反スルヤ否ヤハ事實ニ依リテ決スヘキ事項ニ屬シ一概ニ利益相反スルモノトスルヲ得サルヘク殊ニ何レノ場合ニ於テモ常ニ特別代理人ノ同意ヲ要スルコト、ナラハ其多クハ親族會ノ設ナキニヨリ之カ選定ヲナス等其手續ノ煩雜ナルニ堪ヘサルカ爲メ却テ届出ヲ怠リ若クハ事實ニ副ヘサル届出ヲ爲ス等意外ノ結果ヲ生スルノ虞モ可有之カト思料セラレ候ニ就テハ親權者カ婚姻又ハ親族入籍ニ因リ其ノ家ヲ去ル場合ヲ始メ前掲何レノ場合ニ於テモ未成年戸主ノ利益相反スルヤ否ヤハ一ニ事實ニ依リ決スルコトニ御再議ヲ仰キ度本會ノ決議ヲ具シ此段及稟請候也

民事局長回答 (大正八年十二月十一日) (民事第五三五四號)

親權者ト子トノ利益相反スルヤ否ヤハ勿論事實ニ依リテ決スヘキモノナリト雖モ例示ノ如キ場合ニ於テハ親子ノ利益相反スルモノト認ムヘキ

ニ付常ニ特別代理人ヲ選定シ其ノ同意ヲ得セシムルヲ要スル儀ト思考致候

(1318) ○静岡縣安倍郡長田村長稟伺 (大正九年五月七日)
左記戸籍面ノ母乙ハ弟丙ヲ相續人ニ選定シタルニ丙カ相續ヲ承諾セサル場合民法第八百八十六條第五號ニ因リ親族會ニ於テ拋棄スヘキヤ將又民法第八百八十八條ノ規定ニヨリ特別代理人カ拋棄スヘキモノナルヤ
大正九年五月一日死亡

戸主 甲 成年者
母 乙
弟 丙 十八才
民事局長回答 (大正九年五月十七日) (民事第一五九五號)
後段貴見ノ通

(1318) ○静岡縣安倍郡長田村長稟伺 (大正九年七月十日)
第三項 左記ノ場合利益相反スル行爲トシテ特別代理人ノ同意ヲ要スヘキヤ
イ、未成年戸主甲ノ親權ヲ行フ母乙カ戸主甲ノ

○訓令、通達、通牒類

弟ニシテ十五年未滿ノ丙ノ養子縁組ヲ伏ツテ承諾スル場合戸主甲カ爲スヘキ縁組ノ同意
ロ、前項丙カ滿十五年以上ノ未成年者ニシテ母乙カ縁組ノ同意ヲ爲ス場合ニ於ケル戸主甲ノ縁組ノ同意
ハ、未成年戸主ノ親權ヲ行フ母ノ私生子出生届出ニ爲スヘキ戸主ノ同意
民事局長回答 (大正十年三月三日) (民事第二四九一號)

第三項、例示(ロ)ノ場合ニ於テハ特別代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス
例示 (イ)及(ハ)ノ場合ニ於テハ貴見ノ通

(1320) ○静岡縣榛原郡初倉村長稟伺 (大正十二年十二月四日)
二 左記戸籍ノ姉丙カ他家ヘ縁組ヲ爲スニ當リ繼母乙ハ戸主甲ニ代リテ同意ヲ與ヘ一方丙ニ對シ親權者トシテ同意ヲ爲セル届書ハ民法第八百八十八條第二項ヲ適用スヘキモノト認メ受理セサルモ可ナル哉

戸主 甲 十五年未滿

九二一〇

乙 成年
丙 十五年以上未成年
繼母
姉
民事局長回答 (大正十二年十二月二十七日) (民事第六四四八號)
第二項 姉丙ノ縁組ニ付テ繼母カ戸主甲ニ代リテ同意ヲ與ヘ一方丙ニ對シ親權者トシテ同意スル場合ニ於テハ民法第八百八十八條第二項ニ依ル特別代理人ノ同意ヲ要セサルモノトス

(1321) ○山口縣防府町長稟伺 (大正十二年四月十二日)
五 甲家ノ親權ニ服スル未成年家族カ乙家ノ家督相續ヲ承認シタル場合ニ於テ其承認ヲナシタル日ト家督相續届出ノ日トカ異ナルトキ其者ノ後見開始ノ日ハ其相續届ヲ爲シタル者カ未成年者本人ナルト其親權者ナルトヲ問ハス相續承認ノ日ナルヤ又ハ相續届出ノ日ナルヤ(法曹記事第三十一卷第十二號ノ決議ノ趣旨ニ依レハ後見開始ノ日ハ相續届出ノ日ナルカ如シ)

民事局長回答 (大正十二年五月五日) (民事第一三一號)
第五項 前段貴見ノ通

○三重縣南牟婁郡尾呂志村長代理助役稟伺 (大正十年十一月二十二日)

(1322) 第二項 民法第八百八十八條ニ因リ特別代理人選任ノ爲メ設ケタル親族會モ無能力者ノ爲メニシタルモノナレハ無能力ヲ止ムマテ繼續スヘキコトハ大正八年六月十六日廣島縣山本村長稟伺同年八月二十八日民事第三七七三號民事局長御回答ニ依リ明カナルモ大審院判決及ヒ大正九年三月二十六日法曹會決議ノ如ク反對説ヲ唱フルモノアリ省議ハ爾後變更セラレタルコトナキヤ
民事局長回答 (大正十一年五月十九日) (民事第三九七號)
第二項 貴見ノ通

○廣島縣雙三郡三次町長代理助役稟請 (大正十一年十月二十八日)

(1323) 第十項 後見人後見監督人保佐人ハ親族會員タルコトヲ得サルコトハ民法第九百四十六條第二項ニ明文アリ然ルニ後見ノ規定ヲ準用ヲ受

○訓令、通達、通牒類

クヘキ繼父母ハ法ニ明文ナシトテ親族會員ニ選定スルモ不法ニアラストノ説アルカ果シテ正當ナルヤ
民事局長回答 (大正十一年十一月二十九日) (民事第四一八六號)
第十項 繼子ニ對シテ親權ヲ行フ繼父又ハ繼母ハ繼子ノ親族會員ト爲ルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス

(1324) ○宮崎區裁判所監督判事問合 (大正十一年三月十三日)
子女ヲ有スル無籍者カ現ニ家長トシテ家政執行中無籍ノ儘死亡シ遺産(不動産)在ル場合之カ相續ニ付テハ戸籍法上死亡セル無籍者ノ就籍ヲ認メサルニ付キ繼令家長タリト雖モ遺産相續トシテ取扱フノ外無之モノトハ思考候得共一應何分ノ御意見承知致度
民事局長回答 (大正十一年四月十二日) (民事第八九三號)

亡家長ヲ戸主ト認定シ得ルニ於テハ死亡者ニ付就籍ノ手續ヲ爲サルモ遺産ハ家督相續ニ因リテ其ノ者ノ子女中法定ノ推定家督相續人タル者

之ヲ取得スヘク此ノ場合子女ハ新ニ戸主及家族トシテ就籍スルコトヲ得ルモノトス反之亡家長カ戸主ナルコトヲ認定シ能ハサル場合ニハ遺産相續トシテ取扱フノ外ナカルヘシ

(1325) ○三重縣阿山郡丸柱村長稟伺 (大正八年十月三日)
左記戸籍アリ其相續權ニ付左ノ二説アリ何レカ正當ナリヤ

明治四十二年四月二十三日中島郡朝日村大字野百九十番地河野安次郎弟入夫婚姻届出受附入籍	戸主	甲
明治四十二年四月二十三日甲ト入夫婚姻届出	妻	乙
明治四十二年四月二十三日父甲入夫婚姻ニ因リ嫡出子タル身分取得シヨルニ因リ携入籍	長男甲長男	丙
明治四十二年五月十七日私生子認知届出同日受附	妻私生子男	丁
	二男甲二男	

甲説 丁ヲ相續人トス
理由 父ノ家ニ在ル庶子ハ父母ノ入夫婚姻ニ因リ直チニ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルコトハ明治四十五年三月二十七日今治區裁判所判事

問合同年四月二日民事第六三〇號民刑局長御回答ニ依リ明カナリ民法第七三七條ハ子ノ出生當時ニ於テ適用スヘク一旦家籍ノ定マリタル子ニハ適用スルコトヲ得サルカ如ク更ニ他家ニ入ルニハ民法第七三七條及ヒ第七三八條ノ規定ニ因ルヘキ連子ハ現民法ノ認メサル所ナリ依テ長男丙ノ入籍ハ身分登記ニ依リ調査スルニ入夫婚姻届ニ嫡出子ノ身分取得スルモノトシテ連署シタルニモ拘ハラヌ入夫婚姻ニ因リ「携入籍」ト事項欄ニ記載シ入籍セシメタルハ違法ナリ然レ共戸籍吏ニ於テ受理シタル上ハ民法第七三七條ニ因リ入籍シタルモノト見做サ、ルヘカラス民法第九七二條ノ適用ヲ受ケ二男丁ヲ相續人ト解スルヲ至當トス
乙説 丙ヲ相續人トス
理由 長男丙ノ入籍ハ其ノ入籍當時ノ見解即チ明治三十一年八月二十一日山梨縣南都留郡寶村戸籍吏伺第七項同年十月六日民刑第一二五五號民刑局長御回答ノ通り嫡出子ノ身分收

左記

大正八年三月五日分家	戸主	甲
大正八年三月五日夫ト共ニ入籍	妻	乙
大正八年三月五日父ト共ニ入籍	二男	丙(父甲二男)
大正九年四月八日親族入籍	母	丁(母乙長男)
大正九年四月十一日母丁ト養子縁組入籍	長男	戊(父甲長男)

民事局長回答 (大正九年六月七日) (民事第一九〇一號)
長男戊ヲ以テ家督相續人ト爲スヘキ儀ト思考ス

得ノ原因ニヨリ母ノ家ニ入りタルモノニシテ民法第七三七條ニ因リ母ノ家ニ入りタルモノニアラサルヲ以テ民法第九七二條ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス殊ニ私生子ノ相續權ハ認知ノ時ニ於テ生レタルモノト見做サル、ヲ以テ長男丙ハ妻乙ノ私生子タル二男ヨリ以前ニ嫡出子タル身分ヲ取得シタルモノナルヲ以テ(明治四十三年五月十四日兵庫縣武庫郡西宮町戸籍吏伺同年七月六日民刑第四六五號民刑局長御回答ニヨリ明カナリ)長男丙ハ先順位ニアルモノトス
民事局長回答 (大正八年十月十一日) (民事第四五六九號)
乙説ヲ相當ト思考ス

(1326) ○静岡縣田方郡三島町長代理助役稟伺 (大正九年五月二十四日)

左記戸籍ニ於ケル家督相續人ハ二男丙ナリト思料致候ヘ共聊カ疑義有之候間至急何分ノ御回示相煩シ度此段稟伺候也
○訓令、通達、通牒類

(1327) ○山口區裁判所監督判事問合 (大正九年五月十四日)
第二 長女ヲ有スル戸主カ該長女ヨリ年長ナル他家ニ在ル自己ノ長女ヲ養子トナシタル場合養子トナリタル長女ヲ以テ家督相續人ト爲スヘキコトハ法曹記事第二十五卷第八號一二四頁ニ掲載大正四年六月八日廣島縣福相村助役稟伺ニ對スル同年七月十三日民刑九五二號御回答ハ項ノ如キナルノ所當管内戸籍事務研究會ニ於テハ法曹記事第二十九卷第十一號二八頁掲載家督相續順位ニ關スル件ト題スル大正

○訓令、通達、通牒類

八年九月二十七日ノ委員會決議ノ趣旨ト同様ニシテ從來在籍ノ年少者タル長女ヲ以テ家督相續人ト爲スヘキモノト決議セリ此ノ決議ハ御回答ニ反スルモ本官ハ之ヲ相當ナルカ如ク思考スルノ所御回答ノ趣旨ハ其ノ後尙御變更之レナキモノナルヤ

若シ御變更無之モノトセハ甲家戸主カ乙家ニ在ル自己ノ長女ヲ養子ト爲シタル後此者ヨリ年長ナル丙家ニ在ル自己ノ長女ヲ養子ト爲シタル場合(養子ノ母方同一人ナ)ニ於テモ後ノ養子ヲ以テ家督相續人ト爲スヘキ御意見ナルヤ

民事局長回答 (大正九年十月十一日) (民事第一六九七號)

第二項 大正四年七月十三日付民第九五二號法務局長回答(ハ)ハ變更セラレス從テ例示ノ場合ニ於テモ丙家ヨリ入りタル長女ニ相續權アルモノトス

○大阪市北區長稟伺 (大正九年十一月六日)

(1328) 九一 一四

第一項 左記戸籍ノ長男乙ヨリ戸主甲生存中二男丙ニ對シ法定ノ推定家督相續人廢除ノ訴訟ヲ提起シタルモ大正七年(オ)第九八四號隱居無效確認事件ニ對スル大正八年二月十四日大審院第一民事部判決ト同趣旨ノ理由ニ依リ原告ノ請求棄却ノ判決ヲ受ケ該判決ノ確定シタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ相續届出アリタルトキハ受理スヘキモノナリト思料致候得共大正六年二月二十八日付大阪區裁判所監督判事問合ニ對スル同年五月五日付民第四三七號法務局長御回答及ヒ明治四十五年五月二十四日付大洲區裁判所判事問合ニ對スル同年六月十日付民第九〇一號民事局長御回答ノ次第モ有之疑義ニ涉リ候

前項若シ卑見ノ通り受理スヘキモノトセハ前記大阪區裁判所監督判事問合ニ對スル法務局長ノ御回答ハ爾後ノ省議ニ依リ變更セラレタルモノト解シ可然哉

戸籍

大正九年十月二十日死亡

明治二十三年二月三日願濟廢嫡明

治二十三年二月五日分家除籍

明治二十五年三月三日廢家ノ上入籍大正八年二月二日相續人廢除取消ノ裁判確定同月五日届出

戸主 甲

長男 乙

明治十年一月三日生

二男 丙

明治十五年三月二日生

長男 乙

明治十年一月三日生

民事局長回答 (大正十年四月七日) (民事第一四二七號)

第一項 伺面ノ場合ニ於テハ民法施行前ノ舊慣ニ依リ二男丙ヲ家督相續人ト爲スヘキヲ以テ長男乙ヨリ爲シタル相續届ハ受理スルコトヲ得ス但シ若シ實際ニ於テ長男乙ノ相續權ヲ認容スル趣旨ノ判決確定シタルトキハ其ノ判決ノ效力ヲ認ムヘキコトハ言ヲ俟タス從テ貴見ノ通取扱フヘシ

(1329) ○熊本縣天草郡大江村長稟伺 (大正十年十月二十四日) 左記戸籍ニ於ケル相續順位並ヒニ額書記載方

○訓令、通達、通牒類

ニ關シ左ノ兩説アリ何レヲ相當トスル乎御回答 煩度稟伺候也

弟松市死亡ニ因リ大正三年五月十四日選定ニ因リ家督相續戸主ト爲ル同日届出同日受附

戸主 川崎 シモ

母 仁之助

私生子男 明治四十年三月十九日生

父向田小太郎長女

母 長女

家族トノ續柄母ニサ養女

明治三十七年六月廿一日生

甲説 リサハシモ前婚家ニ於テ出生シタル嫡出子ナルモ戸主ノ母ノ養女トシテ入籍シタルモノナレハ戸主シモトハ姉妹ノ關係ヲ生スルカ故ニ額書ハ妹ト記載スルヲ相當トシ推定相續人ハ私生子男仁之助ナリ

明治三十八年十一月六日天草郡戸深町千三百八十九番地向田三八孫 妹

○訓令、通達、通牒類

乙説 リサハ戸主ノ母エサト養子縁組ニ因リ入籍シタルモノナレハ戸主トハ姉妹關係ハ生スルモリサハシモノ前婚家ニ於テ出生シタル嫡出子タレハ戸主シモノ母ト養子縁組ナシタリトテ親子關係ニ變更ヲ來スモノニ非ス血族ト準血族トノ二箇ノ續柄ヲ併有スルトキハ相互ノ續柄ヲ比較シ最モ近キ親等ニ依ル續柄ヲ記載スヘキ筈ナレハ額書ハ長女ト記載スヘキカ相當ニシテ被相續人ノ家族タル直系卑屬タレハ民法第九百七十條第一項四號ニ依リリサハ仁之助ニ先タチ相續權ヲ有スルモノト思考ス
民事局長回答 (大正十年十一月二十九日) (民事第四一三八號)
乙説ヲ可ト思考ス

(1830) ○静岡縣駿東郡沼津町長稟伺 (大正十年五月二十日)
二 前戸主ノ父ノ長男ヲ廢嫡シ現在ノ戸主母タルトキハ其母ニ就キ相續開始シタル場合長男ハ家督相續ヲ爲スコトヲ得サルヤ
參照 大正九年大審院判決録第三三一頁掲載

大正四年三月五日乙ト増養子縁組婚姻入籍

養子

明治二十年五月六日生

丁

民事局長回答 (大正十一年五月二十四日) (民事第一八七一號)
長男ト爲リタル丙家督相續人タルヘキ儀ト思考ス

(1332) ○宮津區裁判所監督判事伺 (明治四十五年六月二十六日)
一 私生子女(甲姉乙妹)ヲ有スル女戸主アリ今乙妹父ニ認知セラレタルモ父ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ母ノ家ニ留マレリ母ニ對シ相續開始スルトセハ何人カ相續ヲ爲スヘキヤ
民事局長回答 (大正元年九月十一日) (民事第二五〇號)
法定推定家督相續人甲姉ニシテ母ト乙妹トノ續柄ハ私生子女ト記載スルコトニ當省議決定相成候

(1333) ○福岡市長伺 (大正十年五月二十三日)
七 大正七年六月二十一日宇都宮區裁判所監督

○訓令、通達、通牒類

九一 一六

大正八年(オ)第一〇六二號大正九年三月十三日第三民事部判決
民事局長回答 (大正十年五月十三日) (民事第二三四六號)
第二項 長男ハ當然法定ノ推定家督相續人タルモノトス

(1331) ○福岡縣田方郡三島町長代理助役稟伺 (大正十一年五月九日)
左記女戸主入夫婚姻ヲ爲シ入夫戸主トナリタル後私生子女男丙ヲ認知シタル場合相續權ハ丙丁何レナルヤ疑義ニ付至急何分ノ御回示相煩シ度此段稟伺候也
左記

女戸主 甲
安政五年十月三日生
長女 乙
大正四年三月五日丁ト増養子縁組婚姻

明治二十二年十二月四日生
私生子女 丙
明治四十年五月一日生

判事問合同年十一月十一日民第一三八九號第一項御回答中父カ戸籍法第八十二條後段ノ届出ヲ爲ス場合戸主ノ同意ナキトキハ一家ヲ創立ス可キモノトアリ右ハ嫡出子トシテ母ノ家ニ入り又ハ一家ヲ創立スヘキモノナリヤ
八 前項伺ノ通リトスルトキハ母ノ家ニハ他ニ年長ノ私生子女アル場合ニ於テモ其相續權ハ後ニ入りタル嫡出子ニ在ルヤ
民事局長回答 (大正十年十二月二十七日) (民事第二四四七號)
第七項 貴見ノ通

(1334) ○北海道室蘭市長臨時代理者稟伺 (大正十一年九月三十日)
一 女戸主ト廢家ノ上入夫婚姻シ戸主ト爲リタル乙トノ家族ニ妻ノ長女及乙ト共ニ廢家入籍セシ乙ノ長男トアル場合ニ於テ相續開始シタルトキハ相續人ハ繼子女(妻ノ長女)及長男ニ付ノ兩説アリ孰レカ正當ナリヤ
甲説 繼子女ニアリ

九一 一七

廢家入籍ニ付別段ノ規定ナキモ之レヲ民法第七百三十八條ノ入籍ト見做スヲ得ヘク從ツテ同法第九百七十二條及同法第七百三十八條ノ適用アリト解スルヲ相當トス故ニ本問ノ場合ニ於テ長男ハ同法第九百七十二條ニ依リ相續權ナク繼子女ニアリトス而シテ乙說ノ如ク民法第七百三十七條ノ適用ナキモノトセンカ抑モ日本古來ノ風習ヨリ見ルニ其ノ家ノ相續ニ就テハ血統ヲ重スルコト大ナリ然ルニ本問ニ於テ見ルニ長男ハ他家ヨリ入りタルモノニシテ何等其ノ家ノ血統ナク又繼子女ハ其家ノ血統アルヲ以テ人情トシテ血統アルモノヲ相續セシメントスルハ理ノ當然ナル處トス而シテ此ノ場合ニハ何等法規ナキ故一家ノ平和上繼子女ヲ相續人トスルヲ相當ト認ム

乙說 長男ニアリ

民法第七百三十七條ノ入籍ハ戸主ニ對スル親族入籍及同法第七百三十八條ハ引取入籍ニシテ廢家入籍ハ戸主カ適法ニ廢家シタルヲ以テ

民法第七百六十三條ニ依リ其ノ家族ハ當然他家ニ入籍セサルヘカラス自發的ニ入籍スルモノニアラス故ニ民法第七百三十七條及同法第七百三十八條ヲ適用スルコトヲ得ス從ツテ相續ニ關シテハ民法第七百七十二條ヲ適用スヘカラサルモノニシテ民法第九百七十條ヲ適用シ其家ニ於テ生レタル他ノ直系卑屬ニ先チ其ノ家ニ入りタル直系卑屬タル長男ニ相續權アルモノトス而シテ甲說ハ人情論ヲ以テ決定セントスルモ右ハ法ニ於テ明瞭ナルモノハ法ニ從フヘク法ニ於テ明瞭ナラサルモノハ當然人情其他善良ナル習慣ニ從ヒ決定スルハ至當ナリ而シテ甲說ハ家ヲ以テ基準ト爲スモ法ハ人ヲ以テセラル、モノ、如シ例ヘハ入夫ノ母ハ家督相續人ノ選定權ナキカ如ク右ハ家ヨリスルトキハ當然母ニ選定權ヲ與フルハ至當ナリ此ニ人ヲ基準トスル所以ナリ又廢除者カ死亡シ相續シタル場合ハ現戸主ハ右被廢除者ト養子縁組スルトキハ相續權アル如ク其ノ家ニ對

シテ廢除シタルモノトセハ何等ノ手續ニ依ルモ其ノ家ノ相續スル限リ相續セシメサルハ趣旨ナラスヤ然ルニ其ノ他ノ者戸主ト爲リタル場合ハ相續ニ差支ナシトスルハ之レ人ヲ基準トスル故ナリ故ニ本問ノ場合ニ於テモ入夫ノ主其ノ人ヲ基準トスルトキハ自己ニ最モ血統ノ深キ其ノ直系卑屬タル長男ヲ以テ相續セシムルハ至當ナリト認ム

民事局長回答 (大正十一年十月十八日)

第一項 例示ノ場合ニ於テハ繼子(妻ノ長女)ニ相續權アリ

○廣島縣雙三郡三次町長代理助役稟伺

(大正十一年十月二十八日)

(1335) 第六項 戸主ノ弟夫婦間ニ於テ長男ヲ擧ケタル後弟死亡シタルニ依リ遺妻ト戸主ト再婚其間ニ戸主ノ長男出生シタリ戸主ノ相續權ハ繼子男ニアリヤ將タ自己ノ長男ニアリヤ(二子共他家ヨリ入りタルモノニアラス)

○訓令、通達、通牒類

民事局長回答 (大正十一年十一月二十九日)

第六項 前段貴見ノ通

(1336) ○山形地方裁判所長稟伺 (大正十年一月二十八日)

戸主 甲
長女 乙
二女(丁ノ妻) 丙
養子 丁

明治三十七年養子丁ト戸内婚姻
明治三十四年長女乙ノ女婿ト爲ス爲
養子縁組届出同日受附入籍
明治三十七年二女丙ト戸内婚姻
右養子丁ハ縁組ノ當時長女乙ノ女婿ト爲ス爲ナリシモ結局二女ト婚姻ヲ爲シタルニヨリ民法第九百七十三條ノ養子縁組ニ該當セス相續順位ニ在ルモノト思料ス

民事局長回答 (大正十年二月七日)

第三項 貴見ノ通

(1337) ○宗秩寮勤務宮内事務官照會 (大正十年五月十八日)
一 戸主甲ニ長男乙アリ婿養子丙アリ長男乙ニ長女丁ト養子男戊アリ然シテ長男乙死亡シ婿

○訓令、通達、通牒類

養子丙ハ分家ヲ爲シ長男乙ノ長女丁ハ他家ノ養子ト爲リ長男乙ノ養子戊ハ養子離縁シテ生家ニ復籍シタリ
 其後分家シタル婿養子丙ハ隱居ヲナシタル上妻ヲ携ヘ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ甲ノ家ニ入籍シタルカ他ノ養子ト爲リタル丁女モ亦第七百三十七條ノ規定ニ依リ其家ニ入籍セリ
 二 前項入籍シタル丁女ハ曩ニ入籍シタル婿養子丙ト養子縁組ヲ爲シタリ

山形縣東田川郡東村大字大綱字村下拾九番地

明治二十九年七月十四日同村同大字平民本多五藏養弟亡父覺道二男入籍
 明治三十年二月十三日相續大正十年六月二十四日死亡

明治二十六年七月十四日相續明治三十年二月十三日隱居

平民	井上 さはよ
前戸主妻	井上 さはよ
戸主	井上 久藏
妻	亡妻父 助右衛門長女 慶應二年十一月九日生

右一二項ノ場合ニ於ケル甲ノ推定家督相續人ハ丙ナルヤ將タ丁ナルヤ
 民事局長回答 (大正十年五月二十六日) (民事第二二一〇號)
 一及二ノ場合何レモ婿養子兩家相續人タルヘキ儀ト思考ス
 (1338) ○山形縣東田川郡東村長稟伺 (大正十年七月七日)
 別紙戸籍ニ於ケル家督相續人ハ何人ナリヤ右ハ差掛リ取扱上疑義相生シ候間至急何分ノ御指示相煩シ度此段稟伺候也

九一 二〇

明治三十八年十二月二十八日養子寅吉婚姻届出同日受附	妻前夫 丑三郎 離縁ノ長女 明治元年九月十日生	女長夫前妻	きよせ
明治三十年十二月二十二日同村同大字平民井上寅治二男入籍	養嗣子 寅吉 妻	養嗣子	寅吉
明治三十八年十二月二十八日きよせト婚姻届出同日受附	明治三十二年七月廿八日生	子	寅吉
明治三十二年八月四日出生届出同日受附	明治三十二年七月廿八日生	男	静

民事局長回答 (大正十年七月十六日) (民事第三〇二五號)
 養嗣子寅吉家督相續人タル儀ト思考ス

○山口縣美禰郡大嶺村長稟伺 (大正十年八月二十日)

○訓令、通達、通牒類

(1339) 第一項 廢家者ニ從ヒテ其入リタル家ニ入リタル者ノ相續權ニ關シテハ入籍後身分ニ變更無キ限リ民法第九百七十二條ヲ準用スヘキモ變更ヲ生シタル上ハ多クハ同條ヲ準用スヘカラ

九一 二一

サルコトハ從來公ニセラレタル御回答ノ趣旨ニ依リ了知致居候處左ノ例示

(い) 私生子在籍ノ乙女戸主カ廢家ノ上甲戸主トノ婚姻ニ因リ其家ニ入籍シタル後甲戸主カ其私生子ヲ認知シタル場合ニ於テ其家ニ認知前他家ヨリ親族入籍ヲ爲シタル甲戸主ノ嫡出子アルトキ

(ろ) 甲戸主ニ認知セラレタル者ナル私生子在籍ノ乙女戸主カ廢家ノ上甲戸主トノ婚姻ニ因リ其家ニ入籍シタル場合ニ於テ其家ニ婚姻前他家ヨリ親族入籍ヲ爲シタル甲戸主ノ嫡出子ノアルトキ
ノ場合ニ於テハ廢家者ニ從ヒテ入籍シタル者ハ入籍後又ハ入籍ト同時ニ私生子又ハ庶子タル身分カ嫡出子タル身分カ嫡出子タル身分ニ變更シタル者ニシテ其家ニ於テ出生シタル者トハ聊カ其趣ヲ異ニスルヲ以テ其入籍前既ニ他家ヨリ親族入籍ヲ爲シ居タル戸主ノ嫡出子ヨリ優越ノ相續權ヲ有スル者ト爲スハ穩當ナ

ラサルニ付其入籍前ノ親族入籍者タル嫡出子ト等シク民法第九百七十二條ヲ適用シ以テ民法第九百七十條ニ依リ相續順位ヲ定ムルヲ相當ト思考致居候處如何ニ候哉
民事局長回答 (大正十一年五月十六日)
第一項 貴見ノ通 (民事第三四六二號)

(1340) ○静岡市長稟伺 (大正十一年六月十六日)

第八項 廢家者ニ從ヒ入籍シタル直系卑屬ニ付テモ民法第九百七十二條ヲ適用スヘキ旨大正七年一月二十六日民第二五六三號法務局長御回答有之候處大正十一年一月十八日當區裁判所管内戸籍事務協議會志太郡支部ニ於テ左記ノ通り決議シタルニ對シ本月十日民事第二二五四號ヲ以テ静岡區裁判所監督判事ヘ長女丙ノ婿養子戊ヲ家督相續人トスト決議變更方御通牒相成候得共右ハ廢家者ニ從ヒ入籍シタル直系卑屬ニ付テハ總テ民法第九百七十二條ヲ適用スヘキモノニ非ストノ御趣旨ニ候哉將又

大正元年十二月二十八日民事第七九〇號民事局長御回答ニ依リ廢家者カ養子縁組ヲ爲ス場合從テ入籍シタル直系卑屬ニ限リ同條ヲ適用スヘキモノニ無之哉或ハ決議ノ場合ノ如ク廢家ノ上養子縁組ヲ爲スモノニ從テ入籍シタル女ノ婿養子ト廢家入籍後ニ出生シタル女子トノ間ノ相續順位ニ關シテノ民法第九百七十二條ヲ適用セスシテ可ナルトノ御趣旨ニ有之候哉

参照 静岡區裁判所管内戸籍事務協議會志太郡支部決議事項

二 左記戸籍面ノ相續人ハ丁戊何レナルヤ

明治三十八年九月十二日廢家ノ上縁組入籍大正十年八月十日戸主 甲
死亡ニ因リ家督相續 戸主 甲
明治三十八年九月十二日夫甲ト共 妻 乙
二縁組入籍 妻 乙
明治三十八年九月十二日父甲廢家ノ上縁組シタルニ因リ共ニ入籍 長女 丙
大正十年五月二十日戊ト婿養子縁組婚姻届 長女 丙
明治三十五年生 丁
明治四十年六月一日出生届出 三女 丁
明治四十年生

○訓令、通達、通牒類

(1341) ○廣島縣雙三郡三次町長代理助役稟伺 (大正十一年十月二十八日)

第七項 左ノ戸籍ノ相續人ハ長女丙ナリヤ將タ

大正七年一月二十六日民第二五六三號法務局長回答ニ依リ三女丁ヲ相續人トス
民事局長回答 (大正十一年七月五日)
第八項 堺區裁判所監督判事問合第二項ニ對スル大正七年一月二十六日付民第二五六三號法務局長回答ハ例ヘハ廢家ニ隨テ入籍シタル直系卑屬カ其ノ家ニ於テ生レタル直系卑屬ト父母ヲ同クスル如キ場合ヲ包含セサル趣旨ナルヲ以テ静岡區裁判所監督判事ニ對スル本年六月十日付民事第二二五四號通牒モ亦此ノ趣旨ニ基キ長女丙ノ婿養子戊ニ相續權アリト決シタルモノトス

○訓令、通達、通牒類

繼子戊ナリヤ

大正五年死亡

(大正六年分家セシモ大正七年廢家入籍ス)

(大正六年廢家ノ上婚姻入籍ス)

母丁ニ從ヒ入籍ス

丁ノ長男

繼子

第七項 前段貴見ノ通

民事局長回答

(大正十一年十一月二十九日 民事第四一八六號)

甲 乙 丙 丁 戊

九一 二四

正十年十二月十日付二ノ八第一三二〇號ヲ以テ送付致候當廳管内戸籍協議會第五十回問題決議事項中磯部村(2)問分家女戸主カ私生子男ヲ擧ケタル後分家ノ際本家ニ殘セシ私生子男親族入籍ニ依リ其家ニ入りタルトキハ相續權ハ入籍シタル私生子男ニアリトセシヲ御承認セラレアルヨリ推考致シ丁ニ相續權アリトモ思料セラレ疑義有之候條何分ノ御指示相成度候也

入夫婚姻ニ因リ明治四十二年十二月二日家督相續戸主トナル 戸主 甲
大正九年七月十三日丁嫡出子ト爲リタルニ因リ父母トノ續柄ニ男ト訂正 二男 乙
戸主某孫戸主甲庶子入籍大正九年七月十三日受附 長男 丁
父母婚姻ニ因リ嫡出子ノ身分取得ス 明治四十二年生

民事局長回答

(大正十二年六月十一日 民事第一九八四號)

例示ノ場合ニ於テハ民法第九百七十二條ノ規定ニ依リ二男丙家督相續人タルヘキモノトス引照大正十年九月二十一日民事第三六六三號通牒ハ

(1342)○山田區裁判所判事稟申 (大正十二年五月二十八日)

左記戸籍ノ家督相續權ハ丙丁何レニアリヤトハ年長ナルモ親族入籍ニ付キ丙ニ優越セサルモノト思料致候處大正十年九月二十一日付民事第三六六三號御通牒ニヨリ當廳管内戸籍協議會第四十九回問題決議事項中荻原村(2)問一女甲ヲ有スル戸主カ他家ニ在ル年長ナル長女乙ヲ養子ト爲シタル後相續開始ノ場合相續權ハ甲女ニアリトセシヲ乙女ヲ相續人トスルト變更セラレ又大

他家ニ在ル實子ヲ養子トシテ入籍セシメタル場合ニ關シ本問ノ如ク親族入籍ヲ爲シタル者ニ付キ之ヲ適用スルノ趣旨ニ非ス又引照貴管内戸籍事務協議會第五十回磯部村提出(2)問ニ對スル決議ハ相當トス蓋シ民法第九百七十二條ハ嫡出子又ハ庶子ト親族入籍者トノ間ノ順位ヲ定メタルモノニシテ本來家ニ在ル者並ニ入籍者カ共ニ私生子ナルトキハ同條ノ適用ナク第九百七十條第一項第五號ノ規定ニ依リ入籍者ニ相續權アルコト疑ナキ所トス

參照

山田區裁判所管内戸籍事務協議會事項

荻原村提出

(2) 一 女甲ヲ有スル戸主カ他家ニ在ル年長ナル長女乙ヲ養子トナシタル後相續開始シタル場合ハ甲乙何レカ相續人ナルカ
決議 甲女ニアリ

民事局長通牒

(大正十年九月二十一日 民事第三六六三號)

決議 長女乙ヲ相續人トス

○訓令、通達、通牒類

山田區裁判所管内磯部村戸籍事務協議會決議事項

磯部村提出

(2) 分家女戸主カ私生子男ヲ擧ケタル後分家ノ際本家ニ殘セシ私生子男親族入籍ニ因リ其家ニ入りタルトキハ相續權何レニアリヤ
決議 入籍シタル私生子男ニアリトス

(1343)○荻區裁判所判事稟伺

(大正八年四月二十四日 三ノは第二六八號)

三 甲戸主カ其法定ノ推定家督相續人タル長女乙ニ丙婿養子ヲ爲シ孫女丁ヲ擧ケ丙ハ離縁離婚シ其後乙女ハ丁女ノ爲メ戊男ヲ婿養子ト爲シタルモノアリ此ノ場合相續權ハ戊男ニ移ルモノト信スルモ反對說ヲ爲スモノアリ何レヲ可トスルヤ

民事局長回答

(大正八年七月三日 民事第一一三七號)

第三項 丁ヲ以テ相續人トス

○秋田區裁判所監督判事問合 (大正八年八月二十七日)

九一 二五

(1344)

左記ノ通り未タ相續ノ開始前戸主甲ノ推定家督相續人養嗣子丙死亡シ其代承相續人孫丁懐胎中廢除ノ裁判ニ因リ相續權ヲ失ヒ其後曾孫庚ヲ出生シタルモ丁カ廢除セラレ、ニ先タチ丙死亡後其妻ナル甲ノ三女乙ニ婿養子戊ヲ迎ヘタル戸籍アリトスレハ此場合ニ於ケル甲ノ家督相續人ハ戊庚何レナリヤ而シテ右ニ關シ大正四年十一月二十四日福岡地方裁判所長問合ニ對スル大正五年三月十七日民第三九〇號及大正五年五月三十一日大阪區裁判所監督判事問合ニ對スル同年

十一月九日民第九〇六號貴省法務局長御回答ノ趣旨ニ依レハ後ニ出生セル孫丁廢除當時ノ胎兒庚ニ相續權アリト思料セラレ候ヘトモ大正二年八月四日大阪區裁判所監督判事問合ニ對スル同月二十二日民第四五二號貴省法務局長回答及大正五年(オ)第九一號大正六年五月十八日大審院第一民事部ノ判決例ノ次第モアリ旁々茲ニ疑義相生シ候條至急何分ノ御回答相煩シ度此段御問合ニ及ヒ候

戊ト婿養子縁組婚姻届出 明治三十六年七月二十八日受附	戸主	山田 甲
明治二十三年七月七日入籍 明治三十一年三月十九日死亡	三女	乙 明治七年十二月十七日生
	養嗣子	丙 三女乙ノ夫 慶應三年二月十日生

明治四十一年八月十日廢除ノ裁判確定
大正三年一月五日死亡

孫 養嗣子丙長女 丁
明治二十四年十月三十一日生

明治三十六年七月二十八日入籍

婿養子 三女乙ノ夫 戊
明治七年三月十六日生

明治四十一年九月十四日入籍

孫 孫丁夫婿養子戊ノ婿養子 己
明治十七年十一月二日生

明治四十一年九月十五日出生届出同日受附

曾孫 父已母丁長男 庚
明治四十一年九月十五日生

民事局長回答

(大正八年九月二十七日
民事第三八〇一號)

庚ニ相續權アリ

少數意見 出生死亡ハ共ニ事實ヲ届出ツルモノニシテ從テ其場所ニ付テモ亦其事實發生當時ノ場所ヲ記載スヘキハ當然ノ事ニ屬ス然シナカラ本問ノ如ク單ニ行政區劃又ハ土地ノ名稱ニ付變更アリタルニ止マリ場所其ノモノニ付毫モ變動ナキ場合ニ於テハ之ヲ本籍地ニ於テ出生又ハ死亡ト記載スルモ敢テ差支ナカルヘシ

一四 甲家女戸主乙家ノ家族丙(完全ノ能力ヲ有スル者ニシテ推定家督相續人ニモ非ス)ヲ家督相續人ニ指定シ其單純承認ヲ得テ隱居届出後家督相續届出ニ際リ乙家甲主之ニ同意セス斯ル場合ハ右丙ハ女戸主ノ隱居ニ因リ當然甲家ノ戸主ト爲リタルモノナルカ故ニ同意ナキ儘受理セラレ度旨申出アリタルトキハ婚姻又ハ養子縁組ノ場合ト同様ニ解シ受理シテ可ナルヤ
決 此場合ノ戸主ノ同意ハ絶對ノ要件ニシテ彼ノ養子縁組又ハ婚姻ノ場合ト同一視スルコトヲ得サルカ故ニ本問届出ハ受理スヘカラス

參照 民法第七四三條一項

明治三十一年十月二十七日民刑第一五九四號民刑局長回答第四項「通牒錄六四九」

一五 入夫婚姻ヲ爲シ戸主ト爲リタル入夫カ他ノ女ト通シテ舉ケタル子ヲ庶子トシテ入籍シアリ今入夫離婚ノ場合ハ右庶子ハ當然家督相續人ナリヤ但右庶子ノ外他ニ子女ナシ
決 意見ノ通

一六 前項若シ庶子カ家督相續人ナリトセハ入夫離婚後モ庶子ハ尙戸主トシテ其家ニ止マルヘキカ故ニ嫡母子ノ關係モ亦依然繼續スルモノト解スヘキヤ
決 見解ノ通繼續スルモノトス

少數意見 繼續セス蓋シ嫡母子タル親族關係ハ父ノ配偶者タル關係ニ於テ法律ノ認メタル擬制ニ外ナラス果シテ然ラハ既ニ離婚ニ因リ夫婦關係消滅セハ之ニ基因スル嫡母子ノ關係モ亦當然消滅スルモノト云ハサルヲ得ス

參照 民法第七一九條一項

●右決議ハ少數意見ノ通り認可セララル

一七 入夫婚姻(戸主ト爲ラス)セシ者戸主タル妻廢家ノ上妻ト共ニ妻ノ父ノ家ニ入籍後離婚ヲ爲シタルトキハ夫ハ其實家ニ復籍スヘキモノナルヤ
決 復籍セス

參照 大正五年三月二十二日民第三一六號法務局長回答「通牒錄二四四五」

一八 意思能力ナキ未成年者ノ家族ヲ有スル女戸主廢家ノ上婚姻ヲ爲シタルニ夫ハ婚姻ニ付其戸主ノ同意ヲ得サリシ爲メ離婚セラレタルトキ妻ニ從ヒ入籍シタル右未成年ノ家族モ亦母ト共ニ離婚セラレタル者ニ隨フヘキモノナルヤ
決 離婚ノ效果ハ隨伴入籍者タル未成年ノ家族ニ對シテモ當然及フヘキカ故ニ意見ノ通り解スルヲ以テ相當トス

少數意見 夫離婚セラレ一家創立ノ場合妻ハ夫ニ從ヒ當然其家ニ入ルヘキ事ハ民法第七百四十五條ニ依リ明カナルモ子ニ付テハ別

ニ規定ナキカ故ニ一家創立セル母ノ夫ノ家ニ當然入ルヘキモノニアラス

●右決議ハ少數意見ノ通り認可セララル

一九 分家戸主甲ノ父方ノ祖母乙本家ヨリ親族入籍ノ後甲ノ母方ノ祖母丙亦親族入籍ヲ爲シタル後甲死亡セリ法定家督相續人ハ乙丙何レナリヤ但シ丙ハ乙ヨリ年長ナリ
決 祖母乙ヲ以テ相續人トス

參照 大正十年六月三十日民第二七〇七號民事局長回答「霜山學士親族相續先例類纂四八二頁」

二〇 女戸主養父養母ノ一戸籍アリ女戸主ハ養母ヲ家督相續人ニ指定シ隱居セントス裁判所ノ許可ヲ受クルニアラサレハ隱居ハ不可能ナリヤ
決 許可ヲ要ス

參照 明治三十一年十月十五日民刑第一五一六號民刑局長回答「通牒錄五三七」

二一 左記戸籍面ノ長女ハナ養子縁組ニ因リ他家ニ入ルニ際シ縁組承諾者ハ父一耶ナリトノ説

ト 父一郎 ナリトノ 両説アリ何レカ正當ナリヤ
母マツ ナリトノ 両説アリ何レカ正當ナリヤ

大正六年二月二日山川吉平三女婚
姻入籍大正十二年六月三日協議離
婚届出除籍

戸主 一郎
妻 マツ

長男 嘉造

父一郎 母マツ
長女 ハナ

大正九年十二月生

大正十三年一月十三日婚姻入籍

後妻 キミ

大正十三年四月四日山川吉平三女
親族入籍

從姉 マツ

決 後説ヲ可トス

一三三 戸主ノ二男他家ノ養子ト爲リタル後長男
死亡ニ因リ二男親族入籍セリ今此二男カ他家ノ
養親ト實家在籍ノ儘離縁スルコトヲ得ルヤ若シ
得ルトセハ二男ハ民法第八百七十五條ニ依リ實
家ニ於テ有セシ身分ヲ回復スルヤ否ヤ
但シ實家ニハ養女一人アル相續權ノ消長ニ關係
アリ

決 養子離縁ニ關シテハ唯民法第八百七十四條
ノ制限アルノミニテ本問二男ハ有效ニ協議上
ノ離縁ヲ爲スコトヲ得ヘク從テ養子離縁ニ因
リ實家ニ有セシ身分ヲ回復スルモ家籍取得ノ
原因ハ親族入籍ナルカ故ニ相續順位ニ關シテ
ハ民法第九百七十二條ノ適用アリ

參照 明治四十一年二月二十六日民刑第一六

六〇號民刑局長回答「通牒錄一五七九」

一三三 未成年戸主ノ親權ヲ行フ母ノ私生子出生
届出前死亡シタル場合右母カ未成年戸主ノ法定
代理人トシテ戸籍法第七十七條ニ依ル出生届並
ニ死亡届ヲ爲スニ於テハ私生子ノ入家ニ付戸主
ノ同意アリタルモノト認メ受理シテ可ナルヤ

決 同意見者ト資格ヲ同ウスルカ故ニ入家ニ付
テモ同意アリタルモノト認メ受理シテ可ナリ
第一少數意見 更ニ戸主ノ法定代理人トシテ
私生子入家ニ同意スル旨記載セシメタル上
受理スヘシ

第二少數意見 大正十年四月十八日民事第四

○七一號民事局長回答ノ趣旨ニ依リ重ナル

親族又ハ縁故者ノ同意アルニ非サレハ受理
スルコトヲ得スト解スルヲ相當トス

參照 大正十一年六月五日民第二一二八號民

事局長回答「通牒錄二七八三」

●右決議ハ第二少數意見ノ通り認可セララル

一三四 左記戸籍面ニ於テ甲乙間養親子關係アリ

戸主	甲
養女	乙
婿養子	丙
養女	丁
婿養子	戊
丙ノ長女	孫 己

大正十四年二月生

決 養親子關係アリ

少數意見 養女乙ハ夫丙ニ從ヒ養家ヲ去ルト

○大阪地方決

同時ニ養親子關係消滅スヘキモノトス

參照 民法第七三〇條第三項

●右決議ハ少數意見ノ通り認可セララル

一三五 婚姻届ニ嫡出子タル身分取得スル者ノ記
載ヲ遺漏シ後日其追完届ヲ爲ス場合證人連署ヲ
モ必要トスルヤ必要トセハ其證人ハ婚姻届出當
時ノ證人タルモトニ要スルヤ

決 必スシモ證人ノ連署ヲ必要トセス

一三六 清國人ヨリ寄留届ヲ提出シタル場合ハ之
ヲ受理シテ可ナリヤ若シ可ナリトセハ領事證明
書ノ添附ヲ要スルヤ又該届書ノ送付ハ如何ニ取
扱フヤ

決 届書ハ領事ノ證明書ヲ要セスシテ受理シ該
届書ハ當該役場ニ保存スヘシ

一三七 左記戸籍面ノ長男乙ノ母ハ民法施行前ニ
甲ト婚姻シ入籍セスシテ乙出生シ長男ト記載セ
ラレ其後甲ハ更ニ丙ト婚姻シ丁出生シ相續開始
シタル場合ニハ乙丁何レニ相續權アリヤ

戸主 甲

父東山某長男
母南川某
長男 乙
明治二十二年生

妻 丙
父東山某
母南川某
二男 丁
明治三十二年八月五日生

明治三十一年五月十日婚姻

●右決議ハ左ノ通り變更シテ認可セララル

假リニ民法施行前事實婚姻アリトスルモ戸籍ニ
入籍ノ記載ナキコト明ナルトキハ乙ハ甲ノ嫡出
子ト認ムルコトヲ得サルヲ以テ丁ヲ相續人トシ
テ取扱フヘキモノトス

一三八 大正十三年一月一日北米合衆國ニ於テ男
子出生シ其ノ後母子歸朝シ母ヨリ大正十三年五
月七日日本籍地役場ヘ其ノ出生子(一夫)ノ出生届
ヲ爲シ之ニ基キ戸籍ノ記載ヲ爲シタルニ又復父
ハ前同日該男子(一雄)ノ出生届ヲ在米國駐劄總
領事ニ届出同年七月二十七日外務省經由本籍地

●右決議ハ左ノ通り變更シテ認可セララル

父ヨリ爲シタル届書ハ事由ヲ附シ返送スレハ可
ナリ

一三九 實父ト嫡母ト有スル十五年未滿ノ子カ
養子縁組ヲ爲スニ際シ實父ハ之カ承諾ヲ爲スモ
嫡母ハ行衛不明ノ爲メ承諾ノ意思表示ヲ爲スコ
ト能ハサル場合ニ父ノミノ承諾アル縁組届書ヲ
提出シタルトキハ受理スヘキモノナリヤ

決 受理スヘキモノトス

ハ其届書ヲ送付シ來レリ
此ノ場合届出ノ日ハ同日ニ付如何ニ取扱フヘキ
ヤ

決 領事ノ送付ノ届書ニ依リ前ノ戸籍ノ訂正ヲ
爲スヲ相當トス

大正十五年七月二十七日印刷
大正十五年七月三十一日發行

發行所

和歌山市二番丁二番地(和歌山地方裁判所管内)

戶籍事務協議會

編輯人兼
發行人

田村密雄

印刷者

和歌山市本町二丁目三番地
江川菊松

印刷所

和歌山市本町二丁目三番地
合名社 江川印刷所
電話一四四番

05

412

大正十一年三月三十一日
五十年三月三十一日

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

會計部

終